



北ダッカ市のモデルアカデミー校によるまちあるき研修 (バングラデシュ)
Town watching training at the Model Academy (Bangladesh)

要約

- ミャンマーでは、N連(日本NGO連携無償資金協力事業)の第3年次において、ワーボチャーボ村の防災計画策定に向けた協議会、防災リーダー研修を行いました。また、世界津波防災の日になみ、UNDPと共同で、学校における津波の防災啓発と避難訓練事業(第2フェーズ)において、ラプタ地区の15校と計画策定研修を実施しました。
- バングラデシュでは、国際防災の日に北ダッカ市内の各コミュニティに防災カレンダーを配布しました。また、N連事業において、北ダッカ市のモデルアカデミー校ではまちあるきを実施しました。
- 日本では、ジャパン・プラットフォームの休眠預金等活用事業において、長野市長沼地区にて第1回目の復興リレー講座が開催されました。また団体としては第16回JICA理事長賞を受賞いたしました。本部からは、外部講師派遣を行いました。

Summary

- In Myanmar, online training on school safety was conducted under the project “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township” supported by Ministry of Foreign Affairs of Government of Japan (3rd year). In partnership with UNDP, online training sessions for 15 schools in Labutta township were carried out.
- In Bangladesh, DRR calendars were distributed to communities in Dhaka North City on the International Day for Disaster Reduction (IDDR). Town watching training was conducted at the Model Academy as a part of the activities supported by Ministry of Foreign Affairs
- In Japan, a lecture series was commenced for the disaster recovery of Naganuma District as a part of activities supported by the Japan Platform. SEEDS Asia has been awarded the 16th JICA President Commendation. A staff member of SEEDS Asia delivered lectures in a junior high school.

目次 Contents

ミャンマー.....	2
バングラデシュ.....	4
日本.....	5
Myanmar.....	9
Bangladesh.....	11
Japan.....	12

【認定】特定非営利活動法人SEEDS Asia

658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307

TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413

EMAIL rep@seedsasia.org

WEBSITE www.seedsasia.org

FACEBOOK www.facebook.com/SEEDSASIA/

1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe 658-0072



ミャンマー

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業（第3年次）」事業の様子

ミャンマーのデルタ地帯にあり、洪水常襲地となっているエヤワディ地域ヒンタダ地区ワーボチーボ村を対象地として、シェルター機能を備えた学校の建設と、村と学校の防災能力強化を含めた包括的な学校防災支援を進めています。2020年3月から第3年次事業を開始してきました。ミャンマーでは、9月から新型コロナ感染者が急増し、一層厳しい移動規制が行われていますが、オンラインツールの活用や感染予防策をとりながら研修や建設を進めています。

ワーボチーボ村の防災リーダー研修

10月は「災害の記録と継承について考えよう」というテーマで防災リーダー研修を実施しました。

10月16日には、日本とオンラインでつなぎながら、日本の各地で継承されてきた災害の記録と記憶を次世代に伝える、様々な工夫について紹介しました。

ミャンマーの洪水常襲地では、過去の教訓が家屋の床高や、生業、暮らしに直結して活かされています。一方日本では、神戸で被災された臼井真先生が作詞・作曲された「しあわせ運べるように」や、「1.17のつどい」等、歌やイベントを通して、小さな子どもにも伝えていく工夫がされてきました。このような活動は、先人に想いを馳せ、身を守り、みんなが一丸となって、未来のまちをつくっていくために有効なツールとなることを、参加者は研修を通して実感していました。



オンライン研修の様子



オンライン研修の資料



ミャンマー

学校における津波リスク情報の整備・分析と避難訓練等の津波への啓発活動を推進しています。

UNDP 学校における津波の防災啓発と避難訓練事業（第2フェーズ）

ラプタ地区教員向けトレーナー養成講座／津波防災ガイドブック

2,000キロに及ぶ海岸線と広大なデルタ地帯を持つミャンマーは、津波被害の想定人口が67万人にもものぼり、世界第7位のリスク国とされています（Prevention Web, 2013）。SEEDS Asiaは国連開発計画（UNDP）が実施している「学校における津波避難訓練事業（第2フェーズ）」で、ミャンマーにおける津波防災トレーナー養成プログラムのデザイン、実施、評価の他、今後学校における津波防災を推進していくための政策提言、全国への啓発ツール作成を担当しました。トレーナー養成講座の事業地としてはミャンマー国内でも津波リスクが高いと言われているラプタ地区の15校を対象として、10月12日、13日はUNDPミャンマー事務所と共同で、ラプタ地区15校の教員をオンラインでつなぎ、学校の防災委員会の組成と避難計画を作成する研修を実施しました。

今回の研修では、10年以上に亘りミャンマー事業でご協力・ご指導いただいているヤンゴン大学のミョータン教授（Prof. Dr. Myo Thant）から「地震のメカニズムとデルタ地域の津波リスク」についてご共有いただきました。講義を通じ津波のリスクを理解したことで、参加者は二日間に亘る研修で、活発に計画策定に取り組んでいました。

本事業における政策提言としては、エヤワディ地域大臣からの学校防災への提言書（Pledge of Commitment）に署名をいただき、津波防災ガイドブックのミャンマー語版に加えることができました。



津波防災ガイドブック
ミャンマー語版の表紙

ビデオの放映

11月5日の世界津波の日には、国際連合開発計画（UNDP）ミャンマー事務所と、社会福祉救済復興省災害対応局（DDM）、地方自治体と共同で2018年に実施した津波の避難訓練をベースに、コロナ禍での避難のポイントを合わせて作成したビデオが、ミャンマー国営放送局（MRTV）にて放映されました。同ビデオは、社会福祉救済復興省のFacebook上での投稿を通じ全国に広く共有いただくこともできました。

本事業は東日本大震災の教訓を伝えるべく日本政府が支援をしており、アジア太平洋地域の18か国で展開されています。このプロジェクトを通じて一人でも多くの命が津波によって奪われることのないよう、願ってやみません。

科学と実践の相乗効果は、SEEDS Asiaの活動の中で大切にしているアプローチの一つです。これからも日本を含めたアジアで、つながりを通じた災害にまけない人づくり・まちづくりに励んで参ります。



ミャンマー国営放送局で
放映された啓発ビデオ



社会福祉救済復興省の
Facebookページ



バングラデシュ

学校を拠点としたコミュニティの防災力向上と全市的な意識啓発を目指します。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力支援事業

国際防災の日カレンダーを配布

10月13日は国際防災の日です。例年、バングラデシュでは各NGOや政府機関が一堂に会しイベント内でブースを出展したり、防災に関するプラカードやポスターを掲げて市内を行進したりして、防災の普及啓発を行います。しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベントへの出展が中止になりました。そこで10月12日と13日の2日間に亘って、SEEDS Asiaが作成した、防災情報を記載したカレンダーを北ダッカ市内の各コミュニティや各学校に配布しました。

カレンダーの配布先では「カレンダーを壁にかけて、毎日目にすることによって、防災への意識を高めていきたい」、「防災に関するカレンダーは今までなかったのととても良いと思う」といった感想をいただきました。日頃から災害に備えるために、少しでも役立てていただけることを願っています。



防災カレンダーを受け取った
コミュニティのメンバー

モデルアカデミーでまちあるき研修

新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期になっていた、モデルアカデミー校による「まちあるき研修」を10月22日に実施しました。

バングラデシュ首都ダッカでは、火事や豪雨による冠水が多発し、大きな社会問題になっています。こういった災害に対処すべく、まちあるき研修は、地域の災害リスクを理解して、災害時の避難場所を認識し、災害リスク削減のために自分たちにできることを考え、実行に移すことを目的としています。また、教員が生徒に対して行う防災授業にまちあるきの結果を反映させて、生徒の防災基礎知識の獲得と防災意識の向上を目指します。

先行事業でコミュニティのリーダーにまちあるき研修を実施したことから、その時に育成した地域の防災人材を活かし、コミュニティリーダー1名を講師として招待しました。講師と教職員で学校に設置した資機材の位置やその周りに障害物が置かれていないか確認しました。さらに自分の住んでいる地域に潜む危険箇所や、避難場所、病院等の医療施設、モスクや警察・消防等の公共施設、冠水しやすい道路等をメモし、そして災害に強い学校にするために何が必要なのか、自分や生徒たちを守るために何をすべきか、等を話し合いながら、ハザードマップを作成しました。完成後の発表では、研修の参加者から「これまで日常で災害について深く考えたことがなかったため、今回のまちあるきで新たな発見や気づきがあった」、「危険を予測して準備・行動することが大切だ」といった感想があり、まちあるきの学びを共有しました。



コミュニティリーダーによる
まちあるきの説明



ハザードマップを作成する参加者



長野市 長沼地区

長野県長野市長沼地区の災害復興支援を行っています。

ジャパンプラットフォーム 休眠預金等活用事業：台風15号・19号被災地支援プログラム

「Withコロナ時代」の復興まちづくり支援事業

令和元年東日本台風から1年を迎えて

2020年10月、令和元年東日本台風から1年が経ちました。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますと共に、被災された全ての皆様に心からお見舞いを申し上げます。

10月11日には、災害から1年にあたり、千曲川の破堤によって甚大な被害を受けた長野市長沼地区地域住民の方々が主催された「追悼と復興のつどい」に参加しました。住まいや仕事、教育や健康等、多くの課題を住民の方々が不安に感じておられる声を拝聴し、これからの復興への歩みを微力ながらも一緒にさせていただきたいと、より強く感じました。

事業開始後は新型コロナの感染拡大を受け、なかなか現地の方々にお会いすることができませんでしたが、被災から1年という節目でもあり、新型コロナ対策を万全にしながら、長野市を三度訪問しました。今回の訪問では、長野市復興局復興推進課へのご挨拶の他、長沼地区復興対策企画委員の柳見澤委員長からは、7月末に同委員会のメンバーに寄贈したタブレット端末が会議の際に頻繁に活用されている報告や、現在のまちの状況や課題についてご共有いただきました。

また、10月から開始を計画してきた復興リレー講座の実施について事前打ち合わせをおこない、復興プロセスの中で、まちや個人が選択を迫られる今だからこそ、孤立や対立ではなく、一人一人が理解と納得感を得るための情報とネットワークが必要とされていることを確認しました。



「追悼と復興のつどい」の様子



復興対策企画委員会との事前打ち合わせの様子

これからのまちについて考える復興リレー講座開始！

長沼地区復興対策企画委員会では、地域の「よりよい復興」に向けた住民の意見の集約や行政との橋渡しを進めています。しかし、被害の数か月後から新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた影響で、対面での話し合いや情報収集が難しい状況にあります。

そこで、SEEDS Asiaは復興対策企画委員会へ提供したタブレット端末を活用し、専門家・他被災地の方々に講師をお願いし、オンラインでの復興リレー講座を開始しました。オンライン開催により、感染リスクを下げるだけでなく、復興対策企画委員会メンバー以外の方にもYouTubeにて視聴していただくことができます。

これからのまちについて考える
復興リレー講座

第1回
水と生きる私たちのくらし
ーソフトとハードのベストミックスとはー

講師：中村晋一郎氏
名古屋大学 工学部工学情報科 土木工学専攻 専攻助

2020年10月30日
17:00～18:15

リンク：https://youtu.be/hJ41hJXLwcc

SEEDS Asia
国際公益財団法人SEEDS Asia

第1回の講座は、10月30日に名古屋大学工学研究科土木工学専攻准教授である中村晋一郎先生をお招きし、「第1回 水と生きる私たちの暮らしーソフトとハードのベストミックスとはー」をテーマにお話いただきました。水と社会の相互関係を研究しておられる中村先生からは、「気候変動などの影響により気象災害が頻発・激甚化している側面に加え、建物の立地範囲が浸水リスクの高い地域に広がっていることもあり、災害につながっている」という状況を教えていただきました。また、実際に長沼地区の研究もしておられることから、今後の住居の選択に悩む住民の方々の立場にも寄り添ったお話をいただきました。



YouTubeでライブ配信された
第1回リレー講座の様子

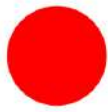
年内は、下記の講座を予定しています。

日時	テーマ	講師
11月27日(実施済) 17:30~18:15	第2回 災害後の暮らしの拠点を考える ー私の住まいは私が決める?ー	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 前田昌弘 准教授
11月25日(実施済) 18:30~19:15	第3回 未来のために過去と向き合うー穂保地 先の堤防はなぜ決壊したのかー	新潟大学 災害・復興科学研究所 防減災技術 研究部門 卜部厚志 教授
12月4日(実施済) 17:30~18:15	第4回 「地域資源」の発掘と復興まちづくりへの ヒント	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 澤田雅浩 准教授
12月18日 17:30~18:15	第5回 未来に遺したいまちの景観をつくるため に	兵庫県佐用町平福地区 元平福地域づくり協議会員 さよう防災リーダー連絡会会長 平福文化と観光の会役員 春名政男 先生 元企画防災課長・まちづくり企画室 長 久保正彦 先生 元消防長 平福道の駅代表取締役 加藤隆久 先生

また、これらの講座のテーマや講師を選定するため、長沼地区復興対策企画委員会との協議や、被災地の情報収集、講師との調整を進めています。この場を借りて、ご協力いただいている皆さまに感謝申し上げます。

全8回で予定をしていますので、是非お誘いあわせの上、ご参加ください。

この事業は、長野市後援、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームの休眠預金等活用事業により実施しています。休眠預金等活用事業は、休眠預金等活用法に基づき日本民間公益活動連携機構(JANPIA)を指定活用団体として、ジャパン・プラットフォームを含む団体が資金を分配し、社会の諸問題の解決を目的に民間公益活動を推進するものです。SEEDS Asiaは、令和元年台風15号・19号被災地支援プログラムで採択され、長野市における復興まちづくり事業を実施しています。



本部

国内の災害復興支援や、国内の講師派遣をしています。

第16回 JICA理事長賞受賞報告と御礼

この度、第16回(2020年度)JICA理事長賞をいただきましたので、ご支援いただいております皆様にご報告を申し上げます。

SEEDS Asiaは2006年に設立され、14年に亘り国内外の防災支援に取り組んで参りました。JICA事業としては、ベトナム(2011年～2013年)、ミャンマー(2013年～2016年)、フィリピン(第1期:2014年～2017年、第2期:2017年～2020年)等、各地で地域や学校防災の災害対応能力強化に努めて参りました。

この度ご推薦いただいたJICA関西様、今まで活動や事業運営にあたり、多大なるご協力とご指導、ご尽力をいただいた皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

一方、甚大化頻発化する国内外の災害を目の前に、賞の喜びよりもむしろ、一層身が引き締まる思いも致しております。これからも一人一人に寄り添うことのできる防災と復興に向けた活動を共に進めて参りたく、改めて皆様のご協力とご支援を引き続き宜しく願い申し上げます。

JICA草の根事業(Bangladesh, フィリピン) の報告会

10月16日、SEEDS Asiaが実施したJICAの草の根技術協力事業のうち、Bangladesh事業とフィリピン事業の完了報告会が開催されました。Bangladesh事業は2016年4月から2019年4月、フィリピン事業は2017年4月から2020年6月まで実施したもので、新型コロナウイルスの感染拡大を受け延期していた報告会を、この度オンラインにて合同開催しました。

JICAの本部、関西センター、在外事務所の多く皆さまにご参加いただき、事業で得た教訓や取り組んだ工夫などについて改めてご報告をする機会となりました。Bangladesh事業では、防災の習慣がないコミュニティの住民の行動変容を起こした仕掛けづくりやメディアを巻き込んだ意識啓発が評価され、フィリピン事業では、JICAが進めるハード案件との相乗効果への期待についてコメントをいただきました。

これらの長期案件は既に終了していますが、それぞれの国で様々な方々と連携し、少しでも成果を残すことができた実績は、SEEDS Asiaの中に根付いています。今後もこれらの事業を通じて得た学びを、活動に生かして参ります。

事業については動画にまとめ、YouTubeにアップロードしています。是非ご覧ください！

1. 「Bangladeshにおける都市部のコミュニティ防災力向上支援事業」

<https://www.youtube.com/watch?v=lnubdgE8qBc&t=21s>

2. 「セブ州における学校の防災管理推進支援事業」

(本事業は兵庫県教育委員会との連携による実施です)

https://www.youtube.com/watch?v=m_nkaH2ZQck

Action Plan Implementation



SEEDS 特定非営利活動法人 SEEDS Asia

事業の成果



SEEDS

各事業説明資料

講師派遣（灘中学校）

10月20日、全国から生徒が通う灘中学校の公民科授業にご招待いただき、阪神淡路大震災の教訓や経験をアジアに伝え、災害に負けない人づくり・まちづくりに取り組むSEEDS Asiaの活動について紹介しました。

質疑応答では「資金調達はどうしているのですか」、「アジアのいろんな場所で活動されているのですが、どんな言語でコミュニケーションをしているのですか」、「学校の建設に取り組まれています、どんな体制で実施しているのですか」といった質問の他、「中2の時に習ったSDGsの知識が役に立ち、災害リスクを減らすための考え方など、実生活で役に立つ情報がたくさん身につきました」というコメントや、「災害のことを思うと日頃から近所の人と交流するのは大切だと思いました」、「色々な場所で働くためにも英語を話すことができるようになるのは大切」といった感想がありました。

講義を通して出会った生徒の皆さんが、どんな立場であれ、優しさ溢れる防災リーダーとなってくださることを期待しています！

新任職員紹介

初めまして。10月よりSEEDS Asia(本部)に入職いたしました當間美波(とうま みなみ)です。

前職ではメーカーの営業として、主に中国法人を担当しておりました。中国は急速な開発と地形的な特徴により、内陸部の長江流域では、毎年初夏に豪雨による洪水が発生しています。以前滞在していた武漢は、長江流域である上、湖を埋め立て都市化を進めた結果、毎年のように街中が浸水しています。私も滞在中に被災した経験から、災害を考慮したまちづくり、そして、人々が防災意識を高め自助・共助の知識を身に付けることの重要性を実感しました。

SEEDS Asiaの職員として、自身が防災能力を高めるとともに、開発が進むアジアにおいて市民の防災意識向上に貢献できるよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。





Myanmar Promoting comprehensive disaster risk reduction (DRR) from construction of safe school-cum-shelter to enhanced community disaster preparedness

Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

Progress of the third year of the project “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township”

SEEDS Asia is promoting comprehensive school safety in Wa boet Chin boet village, a flood-prone area in the Hinthada township located in Ayeyarwady, Myanmar. The project includes the construction of a school-cum-shelter and DRR capacity building for the school and village. The third year of the project commenced in March 2020. Since September, cases of COVID-19 infection increased rapidly, and therefore, stricter restrictions were imposed in Myanmar. However, workshops and construction under the project have proceeded by fully utilizing online platforms, and taking detailed infection prevention measures.

DRR leader training in Wa boet Chin boet village

In October, training for DRR leaders of Wa boet Chin boet village in Myanmar was carried out under the theme “Recording and passing down knowledge on past disasters.” The session covered a variety of methods used in Japan to record and “cascade” the memories of past disasters for and to the next/younger generations.

In Myanmar, past disaster incidents are embedded in the lifestyle of the affected people and households. They can be found in, for example, elevated floor level of houses, livelihoods and daily lives. On the other hand, in Japan, disaster incidents were shared by songs such as “Bring Happiness to the World” (music written and played by Makoto Usui, who was affected by the Great Hanshin-Awaji Earthquake), and events such as “1.17 gathering (a commemorative ceremony of the Great Hanshin-Awaji Earthquake).”

It was agreed among the participants that it would be quite effective to have localized versions of such ideas in order to involve children in the process of sharing past incidents and establishing a common vision of the future community.



Participants discussing online



Materials for online training



Myanmar

Promote tsunami risks awareness and school preparedness in tsunami prone areas

UNDP “Strengthening school preparedness for Tsunami in the Asia Pacific Region (Phase 2)”

Online training sessions in Labutta township / Tsunami DRR Guideline

Myanmar has a coastline that is about 2,000km long, and constantly faces high risk of tsunami. The estimated population that face risk of tsunami damage is as high as 670,000, and it is said to be the country with the 7th highest risk in the world (Prevention Web, 2013).

As a part of the United Nations Development Program (UNDP)’s scheme: “Strengthening school preparedness for tsunamis in the Asia Pacific Region (Phase 2)”, SEEDS Asia is in charge of (1)designing, implementing, and evaluating a trainer training course; (2)developing policy proposals for tsunami DRR in schools; and (3)creating educational tools to be used nationwide. 15 schools located in the coastal area of Labutta township were chosen as the project sites, which are most vulnerable to tsunamis in Myanmar.

On 12th and 13th October, SEEDS Asia, in partnership with UNDP in Myanmar, conducted online training sessions for 15 schools in Labutta township. The sessions focused on forming school disaster management committees, and planning evacuations during tsunamis.

During the training, Prof. Dr. Myo Thant of the University of Yangon, who has supported SEEDS Asia’s Myanmar projects for the past ten years, gave an interesting lecture on the mechanism of earthquakes and possible impact of tsunamis in the Ayeyarwady Delta. By understanding the risks, the participating school teachers were encouraged to actively engage in making their schools and local communities safer.

As a policy proposal, SEEDS Asia received the Pledge of Commitment from the Regional Minister of Ayeyarwady, which was added to the Myanmar version of Tsunami Disaster Risk Reduction Guideline.



The Cover page of Myanmar language version of Tsunami Disaster Risk Reduction Guideline

Short movie broadcasted on MRTV

On 5th November World Tsunami Awareness Day, a short movie featuring tsunami evacuation drills taken in 2018 was broadcast on Myanmar Radio and Television (MRTV), and was widely shared nationwide through Facebook page of the Department of Disaster Management of the Ministry of Social Welfare, Relief & Resettlement (DDM). This project is supported by the Government of Japan to share lessons of the East Japan Earthquake and Tsunami, and is being deployed in 18 Asia-Pacific countries. SEEDS Asia hopes that as many lives as possible would not be lost to tsunami through this project.



The part of short movie broadcasted on MRTV

Synergizing theory and practice is one of the important approaches in our activities. SEEDS Asia will continue to devote in capacity building of people and communities by linking stakeholders in Asian nations, including Japan.



Facebook post by DDM introducing the short movie



Bangladesh

School-based community disaster risk reduction and city-wide awareness raising

Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

School-based Capacity Building for Enhanced Disaster Risk Reduction (DRR) in Dhaka North City Corporation

Distribution of calendars on the International Day for Disaster Reduction (IDDR)

The International Day for Disaster Reduction is observed around the world every year on 13th October. In Bangladesh, NGOs and government agencies gather and setup exhibition booths, with participants marching through Dhaka city while holding up placards and posters on DRR for awareness-raising. However, events were cancelled this year due to the COVID-19 pandemic. On 12th and 13th October, SEEDS Asia distributed calendars containing DRR information to each community and school in Dhaka instead of exhibiting them. Some of the receivers said “I will hang the calendar on the wall and look at it every day, and I would like to keep a high level of awareness of DRR,” and “I think it is very good because there have been few calendars featuring disasters.”

SEEDS Asia hopes such tools would help people acquire basic knowledge of DRR and gain skills to deal with emergencies.



Local staff distributed calendars to a community

Town watching training at the Model Academy

On 22nd October, town watching training was organized for the Model Academy teachers (the training sessions had had to be postponed due to the COVID-19 pandemic).

Recently, an increasing number of fire and waterlogging incidents have also caused a number of social problems in Dhaka. The concept of “town watching” aims to help people prepare for disasters beforehand by understanding disaster risks in the community, finding evacuation places in cases of emergency, making an action plan to reduce disaster risk and implementing it. In addition, the result of the town watching activity can be used to acquire DRR knowledge and raise awareness of students through classes provided by the trained teachers.

In line with this thinking, SEEDS Asia provided town watching training for community leaders in a previous project in Dhaka, and during this phase, one of the trained community leaders was invited as a resource person to share his expertise and experiences in the activity.

The participants inspected the interior of the school to check the location of DRR equipment and to see if there are any obstacles in using them in an emergency. They also took note of dangerous points and evacuation routes/places, hospitals, public facilities such as mosques, police and fire stations, and flood-prone roads. In addition, they created a hazard map while discussing what is needed to make a disaster-resilient school and what to do to protect themselves and their students.

After completing the hazard map, participants presented the maps in the group, and some of the remarks shared by them were as follows: “I had never considered disasters in daily life, but this training allowed me to learn new things and broaden my scope of knowledge,” and “It is important for us to always think ahead, prepare against and take an action for any emergency.”



Town watching training



Participants created a hazard map



Naganuma district, Nagano city

Supporting disaster recovery of Naganuma district, Nagano city

Japan Platform support for 2019 Typhoon Faxai and Typhoon Hagibis-affected areas

Disaster recovery and community building in "an era with COVID-19"

After one year from Typhoon Hagibis

SEEDS Asia would like to take the opportunity to express our sincere prayers to those who lost their lives, and our thoughts go out to all the people who were affected by the Typhoon Hagibis in 2019.

On 11th October, SEEDS Asia members visited Naganuma District in Nagano City, one of the districts that was flooded when a dike burst its banks along the Chikuma river. A ceremony was held to commemorate the disaster on that day. Witnessing the event and hearing concerns and challenges expressed by the residents made us reaffirm our commitment to further work with local stakeholders for the recovery of affected community.

Since the project started, it was difficult to meet the residents face-to-face due to the COVID-19 outbreak. However, since it had been a year since the disaster, SEEDS Asia undertook a third trip to Nagano. In addition to meeting officials of the Reconstruction Promotion Division of Nagano City, SEEDS Asia heard reports from members of the Disaster Recovery Planning Committee of Naganuma District that the tablet devices donated to them under our project during the end of July were being frequently used at their meetings, and they also shared the current situation in the community.

A preliminary meeting was also held to discuss an upcoming lecture series. During the discussion, participants of the meeting confirmed the same idea that, now that the community and residents have to make choices in the recovery process, it is important for individuals to have adequate and appropriate information and linkages in order to fully understand and agree to a decision, without being isolated or resulting in conflict.

Lecture series for community disaster recovery has started!

Naganuma District established a Disaster Recovery Planning Committee to collect voices of its residents and liaison with government bodies to "Build Back Better." However, due to the COVID-19 pandemic, organizing meetings and collecting information have been quite a challenge.

With the difficult situation arising from the pandemic, SEEDS Asia shifted its support to the district from an on-site basis to an online environment - tablet devices were provided for the Committee members, and an online series of lectures for the district will be held online using these devices. This reduces risks of contracting the coronavirus among the residents and lecturers, and also enables other non-committee members to participate in the lectures via YouTube channels.



People gathered for the ceremony held in Naganuma District



Meeting with a member of Disaster Recovery Planning Committee of Naganuma

これからのまちについて考える
復興リレー講座

第1回
水と生きる私たちのくらし
—ソフトとハードのベストミックスとは—

講師：中村晋一郎氏
名古屋大学 大学院工学研究科 土木工学専攻 准教授

2020年10月30日
17:00～18:15

リンク： <https://youtu.be/kJ33b3KXwcc>

SEEDS

The first lecture took place on 30th October and welcomed Dr. Shinichiro Nakamura, an associate professor at Nagoya University, with the theme “Life Living with Water”. As Dr. Nakamura’s research focus is on the interrelation between bodies of water and human society, he pointed out that the increased disaster risk in recent years is not only due to a rise in weather disturbances but also due to more houses being built in flood risk prone areas. He is also conducting local research in the Naganuma District, therefore his talk reflected the actual situation of the area, and highlighted the complex choices that the affected residents would have to make regarding their future localities and residences.

This project is implemented utilizing funds from the Japan Platform (via the Act on Utilization of Funds Related to Dormant Deposits to Promote Public Interest Activities by the Private Sector). More lectures are being planned to be held before the fiscal year ends in March 2021.



The first lecture live streamed on YouTube



Headquarters

Disaster recovery projects and dispatch of staff members as lecturers

SEEDS Asia has been awarded 16th JICA President Commendation!

We are delighted to share with you the wonderful news that SEEDS Asia has been awarded the 16th (2020) JICA President Commendation in recognition of its work in the Asia Pacific Region!

Since its launch, SEEDS Asia has been conducting disaster risk management activities for the past 14 years in Japan and Asian countries. Throughout these years, a large number of projects were supported by JICA, such as projects in Vietnam (2011–2013), Myanmar (2013–2016), and Philippines (Phase 1: 2014–2017, Phase 2: 2017–2020) to promote capacity building of communities and schools.

SEEDS Asia is grateful to JICA Kansai for nominating us, and to all our stakeholders and partners who have supported and guided us over the years. The award has provided a huge boost for us to become more responsive to the challenges of increasing risk of severer and more frequent disasters around the world. This recognition by JICA as well as emerging disaster risks in the region, has made us more determined to work towards disaster preparedness and implement the concept of “Build Back Better” together with individuals and communities. Join us in this path towards better resiliency!

Online reporting session with JICA personnel for the Bangladesh and Philippines grassroots projects

On 16th October, a reporting session was held online for two JICA grassroots projects, namely (1)Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh and (2)Support Project for the Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province. The Bangladesh project was implemented from April 2016 to April 2019, and Philippines project from April 2017 to June 2020.

The session was attended by personnel of the JICA headquarters, Kansai Center, and overseas offices and it was a fruitful opportunity to discuss lessons learned through the project implementation processes and how challenges had been dealt with. The sessions included issues about how the disaster risk reduction initiatives were promoted among the community members in Dhaka and the involvement of media for awareness-raising in the Bangladesh project, while a person from the JICA headquarters emphasized the possibility of synergy between investments made in hard infrastructure by JICA, and the intangible resources developed in the Philippines project of SEEDS Asia such as human resource development and mechanisms of sustained disaster drills at schools.

These projects have completed, but their outputs produced in partnership with various stakeholders in each country will remain in SEEDS Asia as precious institutional knowledge. SEEDS Asia will fully utilize the experiences acquired through the project's implementation in future initiatives.

To see more about the projects, please watch the following YouTube videos:

1. Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh

<https://www.youtube.com/watch?v=lnubdgE8qBc&t=21s>

2. Support Project for the Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

https://www.youtube.com/watch?v=m_nkaH2ZQck



事業の成果



Presentation material of the Philippines and the Bangladesh project

Lecture delivered in Nada Junior High School

On 20th October, SEEDS Asia's Executive Director Mitsuko Otsuyama was invited to the Nada Junior High School to present a lecture. The school's social studies lesson for the day featured SEEDS Asia's initiatives in sharing Kobe's experiences on the Great Hanshin-Awaji Earthquake to other Asian countries, in order to make individuals and communities safer and disaster-resilient.

In the Q&A session, interesting questions from some students such as "How do you raise funds?", "What language do you use to communicate with people in different countries in Asia?", "What is the management structure in the school construction?" were asked, and others said "I was able to comprehend practical information to mitigate daily disaster risks. This lecture also taught me that my knowledge about Sustainable Development Goals is actually useful." and "I am now more aware that being able to speak English will be important for me to work in different places of the world."

SEEDS Asia truly hopes that these students will be able to lead future initiatives in disaster risk reduction, whichever career they may choose.

New member of SEEDS Asia

I am Minami Toma and I have newly joined SEEDS Asia since this October.

Prior to joining SEEDS Asia, I worked as a sales representative of a manufacturing company, and mainly in charge of Chinese businesses. As you may be aware, severe floods have occurred every year in central and eastern China, near the area of Yangze river. While I was in Wuhan a few years ago, not only was I personally affected by floods but I also saw the town itself sinking, and many people suffering since they had nowhere to go. From this experience, I learnt the importance of disaster risk management in town-building, and raising awareness of DRR and acquiring knowledge of self/mutual aid.

As a staff member of SEEDS Asia, I would like to contribute in raising DRR awareness of citizens in developing Asian countries.

